〔倭名類聚抄十七園菜〕苣　孟詵食經云、白苣其呂反、上聲之重、和名知散、漢語抄用寒補筋力者也、高苣二字、上烏禾反、今案高字未詳、

〔類聚名義抄八艸〕苣俗チシャ　高俗萵字、チサ、

〔下學集下草木〕高チシャ

〔和爾雅七菜蔬〕高チサ高菜同、又名千金菜、

〔東雅十三穀蔬〕高苣チサ　倭名鈔に、孟詵が食經を引て、白苣チサ、漢語鈔に、高苣の字を用ゆ、今按ずるに、高字未詳と注せり、墨客揮犀に、高菜は禺國より來る、故に名づくと見えたり、高苣數種あり、色白きものを白苣といひ、紫なるを紫苣といひ、味苦きを苦苣といふ、又別に水高苣あり、苣卽今チサといひ、水高苣をばカハヂサといふ是也、又賣子木をも讀てカハヂサの木といふ、詳ならず、萬葉集の歌に、ヤマチサといふものは、此木をいふにや、仙覺抄には、山高とは木也、田舍人はツサの木といふ也と見えたり、チサの義詳ならず、

〔本朝食鑑三柔滑〕苣訓知佐

集解、田圃家園多栽之、二月彼岸下種、三四月生苗采葉、似蕪菁蘿蔔葉、而色綠帶白、然比千葉雉尾之類、則色尙白有皺文、莖肥中空而脆、折之有白汁、葉莖俱有白毛、莖頭細葉似花、每葉抱莖相重分、又下葉濶大柔滑、俱足爲蔬食、四五月開黃花、如初綻野菊、一花結子、一叢如鶴蝨子、花罷則收斂子上有白毛、茸茸隨風飄揚、落處卽生、七八月復採葉亦可、八九十月再種亦生、然味不及春夏也、一種有稱千葉者、春初生苗有赤莖白莖二種、俱與苣同、俱莖高秀、葉葉相重繁茂、色綠帶碧、其味苦、折之有白汁、開花結子亦與苣同、卽是禮月令所謂苦菜也、關東稀有、京師海西最多、可作蔬茹、一種有雉尾者、正二月下種、葉似苣而尖、如雉尾色稍青、折之有白汁粘手、三四月抽薹、似千葉而高三四尺、花子幷與苣同、東西俱有之、雖可作蔬有毒、妄不可食之、有紫色者、此亦有毒、不可不辨耳、

〔和漢三才圖會百二柔滑菜〕白苣　石苣、　生菜　一種高野苣、近頃間有之、○中略